

---

# 僕の世界はどこにある

夜桜れん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕の世界はどこにある

### 【Nコード】

N9977S

### 【作者名】

夜桜れん

### 【あらすじ】

23世紀、それは高度に発達した世界。そこはコンピュータにすべてを決められる世界だった！

そんな世界で生きていた青年、神谷光一はある日をきっかけにそれまでの日常を失うことになる。彼はどのような運命をたどっていくのだろうか。そして世界の行く末は……

## 第1話 僕の日常が壊れた日

現在は西暦二三五二年。高度に発達した世界が広がっている。現在の世界では、すべての人間の人生がコンピュータで決定される。

生まれたその瞬間にその人の人生が決定され、その定められた人生のルートを進んでいくという効率的なシステムだ。

そんなシステムが採用されるようになったのは二三一六年のことである。二三一一年にスーパーコンピュータ「RFC (Real Future Computer)」が完成したのがきっかけである。このコンピュータはその人間の将来性、能力、将来の性格等を生まれた時点で判断し、その時点での世界の動向と比較して人生プランを作り出すことができるという画期的なものであった。それから五年間のさまざまなテストを繰り返し、世界規模での運用が決定されたのだ。

このシステムをもとに、世界の法も変更されていった。

一時の混乱はあったが、それもすぐに收拾され、これにより世界は安定化されていった。

そして現在まで、世界は全く問題なく動いてきた。世界中で好景が続く、争いなどはおこらず、とても平和な世界。

だが、そこに自由はなかった。人々はシステムによって定められた人生を歩んでいくしかない。人々はそれが当たり前だとして生きていくしかなかった。

二三五二年 四月一六日

僕はついこの前大学二年生になったばかりの普通の学生。名前は

神谷光一。皆と同じように決められた人生をただただ歩んできた。僕は、発電所の職員として働くという事が決まっている。どうやら三九歳でその会社の重役になるらしい。結婚は三三歳の時。相手は会ったこともないが、もう決まっている。多分これは比較的恵まれている人生なのだろう。だから僕は、今日までまっとうな生活をしてきた。今日四月一六日まで。

僕はいつも通り大学へ行き講義を受けた。ここまではいつも何も変わらない日常だった。

帰りの道の途中、普段はほとんど人の通らない路地で誰かの気配を感じ僕は振り返った。しかしそのは誰もいない。気のせいだと思いたた歩き出した。しかし、誰かの足音がする気がした。僕は不気味に思い足を速めると、その足音も速まった。

「なんなんだ……」

そう呟きながら僕は走り出した。振り切るためにできるだけ道を曲がり続けるようにしてアパートに向かった。

息を荒げてアパートにつくと、管理人の後藤さんに声をかけられた。

「神谷君、どうしたの？そんなに息を荒げて」

後藤さんはいつものように明るい口調で話しかけてくる。

「ストーカーにでも追いかけられたの？」

「……まあそんなとこです。」

僕は余裕のない口調で言ったのだが、後藤さんはまだまだ調子よくしゃべってくる。

「ほう。もてる男はつらいね」

僕はあまりそんな話を聞かない気分ではなかったので適当に話を付けて部屋に戻った。

部屋へ戻ると疲れがどっと押し寄せベッドで横になっていた。すると、すぐに電話がかかってきた。僕は携帯をとると、それは父か

らだった。

「もしもし？」

「光一！急いでそこから離れる！」

いきなり父さんは怒鳴ってきた。僕はわけがわからず尋ねた。

「離れるって、どういうこと？意味が分かんねえよ」

「今は事情を説明してる暇はない。さっきメールで住所を送った。

そこに向かえ。そこには高坂という俺の知り合いがいる。あいつなら何とかしてくれるはずだ」

僕はわけがわからなかった。どうということなんだ。さっきからおかしいことばかりだ。

「父さん、何言ってるの？ねえ」

「いいから急げ！急がないとお前の所にも……」

そう父さんが言いかけた時、電話の向こうで銃声のような大きな音が聞こえた。

「え……何今の音……」

「う……こ……光一……急げ……」

僕は理解できない感情がこみあげてきて叫ばずにはいられなかった。

「父さん！おい！父さん！」

しかし、返事はなかった。僕はあきらめずに何度も何度も呼んだ。それでもやはり返事は返ってこなかった。

「くそっ……！」

僕は電話を切り、メールを確認した。そして家を出ようとドアに向かった。

そして、ノブに手をかけたその時、外から銃声が聞こえた。

「え……」

僕はドアの前で立ち止まってしまった。

どうなっている。何が起きているんだ。

僕はすごく動揺していて、その場から動くことができなかった。

何秒、何分そうしていたかわからない。

しかし僕は隣の部屋のドアを無理やり開ける音が聞こえた。

僕は直感的にやばいと思い、裏の窓へと向かった。僕の部屋は二階ではあったが一階の屋根をつたって降りることができる。

僕が窓を開けた時、僕の部屋のドアが開いた音がした。

「しまった……鍵をかけてない………」

僕は急いで窓から出て、屋根をつたってアパートの裏の道に降りた。そして一目散に走りだした。

その時銃声が聞こえたと思ったその時、左肩に痛みが走った。弾がかすつたらしい。僕はふらつきながらも必死に走った。

そして最初の交差点を曲がると、誰かに引つ張られ車へ連れ込まれた。

「な……何するんだ！」

僕は思いきり暴れた。口をふさがれ、苦しいと思ったがそれでも暴れた。すると僕をおさえている男が言った。

「落ち着け。俺たちは怪しいもんじゃない。お前の父親の知り合いだ。」

僕は動揺しきっていて何も話が聞こえなかった。しかし、突然目の前が暗くなっていき、僕はその場で意識を失ってしまった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9977s/>

---

僕の世界はどこにある

2011年5月4日21時40分発行